

1 学期の最後を飾って **6 年生の親子キャンプ**が進行中です。先ほどは、肝だめしで校長室の前を子どもたちがキャーキャーと叫びながら通り過ぎていきました。もちろん、職員室も校長室も協力をしなければいけませんので電気を消して真っ暗です。その肝だめしも終わり、子どもたちが楽しさを謳歌するように笑いながら、運動場に張っているテントに入っていました。その後も、きっとワクワクするような夜を過ごすのでしょう。空には満天の星。

そんな夜にこのお便りを書いています。いよいよ夏休みです。その前の終業式では、ともに挑んだ 1 学期の子どもたちの姿をあげながら、**続けるという努力**の素晴らしさを話そうと思っています。いつも努力が実を結ぶとは限らないけれど、今はめあてに届かなくても、努力する力をつけた子どもたちは、これから見つける目標を達成する可能性を秘めています。願いを叶える人になれるはずです。そんな話をしようと思っています。続けるという努力を、夏休みにしてほしいという願いを込めて。



南小のグラウンドにキャンプファイヤーの炎が燃え上がりました。



今年もお父さんはやってくれました。衝撃です。子どもたちが夜、テントの中でうなされていました！？



幻想的なフィナーレです。上の写真とは好対照。

そして、いつも長い休みの前には子どもたちにするのですが、休みの間の一番の宿題は、自分の命と健康を守ることだという話もあります。決して、交通事故に遭ってはいけません。決して、水の事故に遭ってはいけません。決して、怖い事件に巻き込まれるようなことがあってはなりません。それぞれの学級でもきちんとその話をしますが、子どもたちは夏休みの間ほとんどの時間を家庭と地域で過ごします。ご家庭でも、しっかりと安全についての話をしてあげてください。そして、地域の皆さま、どうか南っ子をお守りください。

「オンザビーチ シェル ゲットゲット」。

少し前になりますが、子どもたちが英語を教えてくれるキャスリンと廊下で立ち話をしていました。通りがかったわたしに、一人が「先生、“潮干狩り” ってどう言うたらええのん？明日行くねんけど、説明できひんねん。」と、困り顔で聞くもんですから、私は自信満々にキャスリンに通訳しました。それが、上の言葉です。「ゲット」を 2 回繰り返したのは、その動作と収穫の喜びまでも込めています。キャスリンは、「オ～！！」と両手を広げながら、分かったという顔をしました。わたしは、子どもたちから尊敬の目を向けられ鼻高々！？・・・という話を家でしてやると、家族そろって大笑い。いえいえ、わたしは笑い話をしているのではありません。自慢話をしているのです。妻も息子も娘も、「それ、きっと分かってへんで。」と、異口同音。息子が、「きっと、貝殻集めやと思っとるで」。娘が、「悪いと思って、分かったふりをしてくれたんや」。妻が、「“潮干狩り” は“クレミング” いうねんで。」とダメ押し。それ以来、我が家では、わたしの英語力のなさを表す言葉として「オンザビーチ シェル ゲットゲット」が定着しました。それでもわたしは、伝わったんだと今も信じています。・・・何が言いたいかというと、家族そろって楽しい夏休みをお過ごしくださいということです。



3 年生の図書館見学。これから、いっぱい借りてくださいね。